

令和7年度「高知県よさこい海外普及支援事業」活動実績について

派遣日時: 令和8年3月11日(水) 18:00～21:00

派遣場所: 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

【派遣行程】

◆タイムスケジュール:

- 17:30 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 到着
- 17:30～19:00 打合せ及び会場セッティング
- 19:00～21:00 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所において指導

指導内容

1. 自己紹介(5分)
 2. 海外でのよさこいを通じた文化交流(10分)
 3. よさこいの歴史や基本の紹介(15分)
 4. 「正調よさこい鳴子踊り」のレクチャー(90分)
- 21:00～21:30 撤収・片付け
 - 21:30 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 出発

◆参加者人数:

- ・JICA 駒ヶ根訓練所 訓練生 24名

【指導実績】

1. プレゼンテーションでの自己紹介・よさこい紹介

参加者のほとんどがよさこい初体験、初めて知るというスタート。パワーポイントにて「世界に広がるよさこい」「つながる手段としてのよさこい」の2つを大きなテーマで説明を行った。特に、「鳴子を手に持ち、鳴らしながらみんなで輪になって踊れば、言葉が違ってても繋がる・心を通わせることができる」という部分は頷きながら聞いてくれる方々も多かった。

<h3>2. 自己紹介</h3> <p>大崎 博士 (おおさき ひろし)</p> <p>出身：高知県高知市</p> <p>よさこい歴： ・大学生時代に「北海道大学“輝”」を立ち上げる ・社会人になり「YOSAKOIソラン祭り」プロデューサーを務める ・30代に高知へ帰り、よさこいチーム「にぎわいポニートrom3.11」を立ち上げ、現在に至る。</p> 	<h3>世界に広がる「よさこい」</h3> 	<h3>3. 世界に広がる“よさこい”</h3> <ul style="list-style-type: none">※1954年に高知市で戦後経済復興の足跡かりとなることを目指して誕生したよさこい祭り。1990年代に乳根市のYOSAKOIソラン祭りなど国内の各地の文化と融合したよさこいに発展したことをきっかけに国内外に急速に広まる※現在では、国内では約200か所、海外では34の国・地域で踊られる世界的な祭りへと成長※高知県では、よさこいの知名度をさらに向上させ、外国人観光客の誘客につなげるため、よさこいアンバサダー制度やよさこいマイスター制度などを設けている 	<h3>5. まとめ</h3> <p>「つながる手段 “鳴子・よさこい”」</p> 
---	--	---	--

2. 正調よさこい鳴子踊りレクチャー

サポートスタッフメンバー3名がまずはお手本を見せ、全員で見よう見まねで踊ってみた後、3グループに分かれてレクチャーを行った。まずは鳴子の持ち方からはじめ、鳴らし方、腕の使い方等を伝えた。初めて鳴子を持つ方々も多かったが、上手に“シャン”と音が鳴った瞬間の気持ちよさを共有することができた。その後は正調よさこいの基本的な振り付けを振り落とし。難しい部分もあるが、みんなで揃えるポイントを意識して教えることで、動きが揃った時の達成感をみんなで味わった。何度か曲をかけて踊った後、最後にみんなで輪になって流し踊りを行った。全員が完璧に踊れるようになったわけではないが、掛け声を出したり、鳴子が揃った時の嬉しさ、みんなで踊る楽しさを共有することができた。



【派遣事業を終えて】

これから世界に旅立っていく皆さんが、各国の方々と繋がる手段としてよさこいに触れてもらう貴重な機会に関わることができ感銘を受けました。実際に鳴子や踊りに触れてみると、こちらの熱量以上に楽しむ力を持つ研修生のみなさん。上手・下手関係なくみんなで輪になって、心を通わすことができるよさこいの魅力を私たちも一緒に体感することができました。「赴任先でぜひよさこいをやります！」「よさこい楽しい！」と仰っていただく人も多く、研修時間が終わった後も「もう1回ここの振りを教えて！」「もう1回みんなで踊ろう！」と、その輪の広がりを実感しました。この先みなさんが青年海外協力隊として世界に羽ばたかれ、また国籍を越えて繋がる手段・きっかけに「よさこい」が役立つと大変うれしいです。



講師名簿

氏名	役割	内容
大崎 博士	よさこいマイスター	正調よさこい指導
西村 ひかる	補助スタッフ	よさこい指導補助
重田 蒼依	補助スタッフ	よさこい指導補助
谷 空澄	補助スタッフ	よさこい指導補助